

栗東市における「まちづくり基本構想(後継プラン)」の終了にあたっての対応について

1 後継プランについて

(1) 概要(経緯等)

- ・栗東市において、東海道新幹線の新駅を核としたまちづくりに向けて取組が進む中、平成 19 年(2007 年)に県の政策変更により新駅計画は中止となり、これに伴って県と栗東市は、新駅計画跡地の新たなまちづくりに向けた構想の検討を進め、平成 21 年(2009 年)に「まちづくり基本構想(後継プラン)」を策定した。
- ・県および栗東市は、この「後継プラン」に基づき、道路や下水路等の基盤整備を実施するとともに、高い交通利便性を活かしながら企業立地促進に努めてきたところ。
- ・こうした中、令和 6 年度に最後の道路工事が完了し、これに係る支出を令和 7 年度に栗東市に対して行い、後継プランで予定していた支出事業は完了した。

(2) 取組状況

- ・基盤整備 道路 総延長約 5.3km、下水路（雨水幹線） 総延長約 2.3km
- ・共同土地活用 企業立地 15 社（面積 22.0ha、残り 1 区画 0.1ha）
- ・まちづくり支援 蜂屋まちづくり計画作成支援

(事業費と分担内訳)

○道路、下水路等[H21～R7]

計約 55.4 億円（県支出 約 17.3 億円、市支出 約 18.0 億円、国支出 約 20.1 億円）

○工業団地[H22～H24]

計約 20.6 億円（県支出 約 3.1 億円、市土地開発公社支出 約 17.5 億円）

2 地元自治会との調整

(1) 対象自治会

- ・上鉤、下鉤甲、手原、蜂屋の 4 自治会

(2) 自治会への説明内容

(要旨・抜粋)

- ・関係各位の多大なるご支援とご協力により、令和 7 年度をもって、基盤整備や共同土地活用など、後継プランの各事業について(共同土地活用事案 1 件を除き)完了させていただきました。
- ・残る共同土地活用については、県市で引き続き対応するとともに、取組の整理と課題の確認を行ってまいります。

令和 8 年 2 月～3 月にかけて各自治会総会で説明され、特に意見はなかった状況。

3 今後の課題と対応（案）

（１）栗東市からの令和９年度に向けた知事要望（令和８年９月実施）

（後継プランの完遂および完遂後の取組に係る支援）

- ①事業効果のとりまとめ、後継プラン完遂に向けた調整に配慮願いたい。
- ②基盤整備は完了したが、市民がつどい・憩い・ふれあう機会が不足していることから、上鉤公園の再整備が必要。多額の事業費を要することから配慮願いたい。

※栗東市議会(令和８年２月２５日)の市長施政方針演説でも上記①②に言及

（２）県の対応（案）

①後継プラン終了に係るとりまとめ報告書の作成および関係者への説明等

- ・後継プランの取組実績に係るとりまとめ報告書を県・市共同で作成し、地元自治会等へ説明を行う。

「後継プラン報告書」…A４版カラー８ページ【別紙（案）】

- （構成）
- 1 まちづくり基本構想(後継プラン)とは（基盤整備の概要）
 - 2 まちの変遷（上空写真を用いた比較）
 - 3 数字で見る栗東市の変化（人口、税収、鉄道乗降客数、企業立地）
 - 4 知事および市長のコメント

- ・残る土地活用（企業立地）への支援として、蜂屋地区に残る１カ所については、引き続き情報発信等の支援を行う。

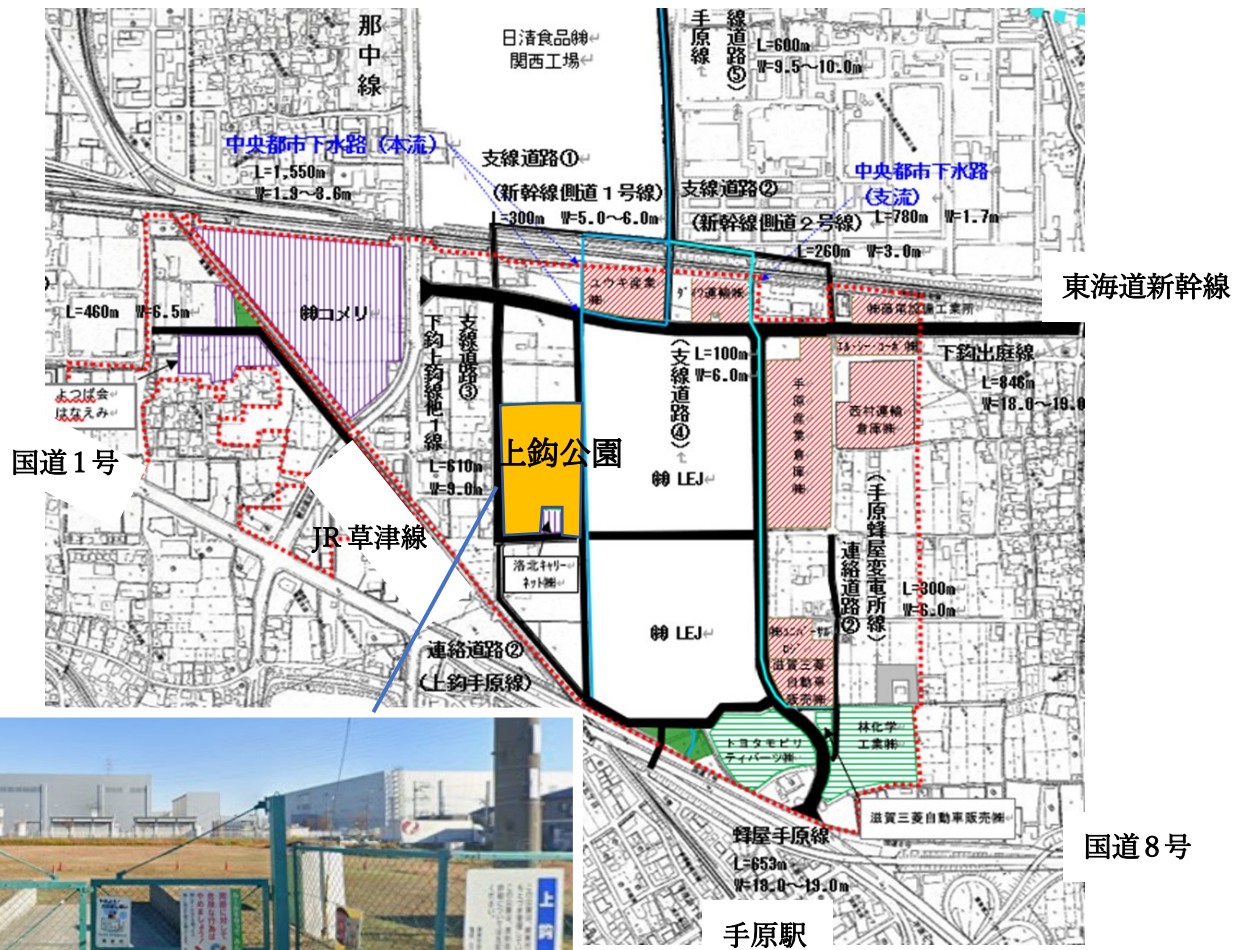
②上鉤公園整備に係る支援

- ・後継プランのテーマとして「地域活力創生のまちづくり」を掲げていたが、市民がふれあう場は不足している状況。
- ・市は、後継プラン完遂後の取組として、この課題の解決に向け、上鉤公園の再整備を計画し、県の支援を要望（継続要望）。
- ・今般、市の計画内容を踏まえ、県として次の財政支援を行うこととする。

事業内容	公園施設(芝生、遊具、ｽﾎｰﾂ広場 等)、道路整備、案内板設置等
事業費	2億3千万円（うち公園施設費 約1億6千万円）
支援額(案)	4千万円（市との協議により公園施設費の国補助残額を県市で分担）
財源	滋賀県 東海道新幹線 新駅地域振興等基金
支出根拠	・基金条例(目的：新駅計画の中止に伴う関係地域の振興その他の課題に対応) ・合意書（新規に締結） …市支出の翌年度に県が予算措置し支払い（後継プランと同様の形式） …新駅中止に係る最後の財政支援であることを明記

※今後のスケジュール 地元自治会へ報告、県市共同の後継プラン終了発表

(上鉤公園位置図)



(公園イメージ図)

